# 第 12 期Ａコース（オーストラリア）帰国レポート

## ○　オーストラリア（南オーストラリア州）　帰国レポート

令和６年１月 25 日（木）に日本を発ち、オーストラリア（南オースラリア州）で留学生活を始めた第 12 期Ａコース研修生 18 人が、約 10 か月間の留学生活を終え、令和６年 12 月２日（月）、日本に帰国しました。

《特別プログラムの第１日》

令和６年 11 月 29 日（金）、ホストファミリーに送迎してもらい、アデレード市内の South Australian Government Schools の前に集合した後、アデレード市内のフリンダース大学を訪問しました。

フリンダース大学は、最新の技術と教育を組み合わせ、実学に生かすことを目指して多くの企業をキャンパス内に誘致し、社会に貢献する研究を行っている革新的な国立大学です。また、日本人初の宇宙飛行士である毛利衛氏が博士号を取得した大学としても知られています。研修生たちはフリンダース大学の２つのキャンパス、トンスリー・キャンパスとベッドフォード・パーク・キャンパスを見学し、初めて訪れるキャンパス内を興味深く散策しました。

キャンパス見学の際、研修生たちは現地の大学生と直接対話する機会もありました。大学生活や学業について具体的な質問をすることで、実際の大学生活の様子や、学業とプライベートのバランスの取り方など、リアルな情報を得ることができました。大学生たちは自分たちの経験を基に親身になってアドバイスをしてくれたため、研修生たちは海外の大学生活に対する具体的なイメージを持つことができました。

また、研修生たちは「Leadership and International Business」をテーマにした特別授業を受けました。この授業では、「マネージャー」と「リーダー」の違いや、良いリーダーとは何かなどについて考えました。授業を通じ、研修生たちは自分自身のリーダーシップスタイルについて考える良い機会となりました。

研修生からは、「今までは日本の大学しか考えていなかったけど、海外の大学にも興味が湧きました。」といった声がありました。今回の訪問を通じて得た経験と知識は、彼らの将来の進路選択において大いに役立つことでしょう。

＜お世話になったホストファミリーとの写真＞

＜キャンパスツアーの様子＞

＜フリンダース大学での集合写真＞

《特別プログラムの第２日》

アデレード市内にある宿舎（The Monastery）で特別プログラムが行われました。ここでは、日本に留

学経験のあるオーストラリア在住者の体験談を聞く貴重な機会がありました。研修生たちは、自分たちと同じ高校生時代に日本へ留学した方の話を通じて、自身のオーストラリアでの経験と照らし合わせながら、世界と日本とのつながりについて改めて考えることができました。また、オーストラリアで現在活躍している日本人の方によるプレゼンテーションも行われました。研修生たちは、実際に海外で働いている日本人の話を聞くことで、自分のキャリアについて深く考える良い機会となりました。第２日目のプログラム通じて、彼らは将来の目標や進路について新たな視点を得ることができました。

＜日本に留学経験のある方のお話を聞いている様子＞

《特別プログラムの第３日》

最終日の朝、これまでの留学生活で学んだことや感じたことなどを、研修生一人一人が英語で発表しました。オーストラリアでの学びを通じて、多くの研修生が「将来、こういった職業に携わりたい」とはっきりとした目標を発表することができました。３日間の特別プログラムの最後には、同行した教職員研修センターの職員から、「オーストラリアの人たちによく知られている“I still call Australia home”という歌があります。皆さんにとって、ホームとなる場所が増えたことは嬉しく思います。留学中に学んだことを生かして、これからも歩みを進めていってください。」と、研修生の今後の活躍を後押しするメッセージがありました。

全ての留学プログラムを終え、南オーストラリア州に留学していた研修生たちは令和６年 12 月２日（月）に、無事帰国しました。約 10 か月の留学生活の中で困難な場面に直面することもあった研修生たちですが、様々な経験を通じて自分自身を大きく成長させることができました。“This is the beginning of your new stage.”世界や日本の将来を担う人となるため、次のステージでの更なる成長を期待しています。

＜英語で発表している様子＞

＜東京都教職員研修センター職員からのお話＞